

要約

ピープルズ・ホープ・ジャパンのカンボジア事業では、主に地域での母子保健改善に取り組んでいる。2008年から2010年の3年間、コンポントム州バライ・サントク保健行政区にて4カ所の保健センターを対象に保健センターでの母子保健改善事業を実施した。

事業目標を、草の根の人々を支える公的保健機関である保健センターが「適切な母子保健サービスを提供できること」と、村人が「正しい保健知識を持ち保健に関する意識が向上すること」の2点に置き、保健センター助産師の育成、運営の改善活動、村の代表である保健ボランティアや伝統的産婆の育成、村人を対象とした保健教育など、主に地域で保健のために働ける人材を育成する活動を行った。その他にも、医療器材の供与や設備の充実などにも目を配り、きちんとしたサービスが提供されるような環境を整えた。

事業評価として、設定した指標値の達成度、コミュニティサーベイによる村の女性たちの母子保健に関する知識の変化と行動変容、保健ボランティアや伝統的産婆へのインタビューを行い、その結果を総合的に評価した。

評価結果

妥当性: 高い

妊産婦が保健サービスを利用して安全な妊娠・出産を迎えることが困難を極めているカンボジアでは、母子保健改善は、カンボジア政府が取り組む最優先課題として認識されている。また、コンポントム州の母子保健指標は全国の中でも比較的悪いため、特に遠隔地である農村での母子保健改善への取り組みや助産師教育は国の政策・地方での取り組みとの整合性も高く、地域の保健行政やサービス機関にとっても望ましい活動となっている。

有効性: 指標をほぼ達成

トレーニングに参加した保健センター助産師は十分な知識とスキルを持って母子保健サービスを提供するようになったことが確認されている。保健センターの衛生状況や医療器具の整備など重要な保健センターの運営上の課題も一部を残して改善した。一方で、村と保健センターのネットワークも改善され、保健センターでの保健ボランティアや伝統的産婆を対象とした会議も毎月開催され、有益な情報交換が行われている。保健教育開催など、保健ボランティアや伝統的産婆の村内での働きかけにより、村人の保健知識は向上し、多くの村人が保健サービスを利用するようになった。

効率性: 高い

保健センター助産師へのトレーニングのために州保健局・保健行政区・州病院のスタッフといった

地域のリソースパーソンが協力し、遠くの保健施設でのトレーニングに参加するよりも低い費用で開催することができた。また、保健ボランティアや伝統的産婆への教育ワークショップも保健センターという彼らの身近にある場所で開催することによって交通費を抑えることができた。3年という短期間で目標とした効果が上がったので、効率性は高いと言える。

持続性：一部継続に懸念はあるものの特段の問題ではない

国家の保健予算が厳しい中、母子保健改善活動への比重が比較的高いことを考えると、保健センター運営に関する予算は継続的に支援されるものと思われる。運営委員会・保健ボランティアとの会議や伝統的産婆とのなどの会議に関しては、NGOや国際機関の支援が必要であると思われる。ただ、村人の知識や行動変容に関しては、今後継続して改善されていくことが見込まれる。

インパクト：正のインパクト

活動の成果として、妊婦健診受診者の増加、保健センターでの分娩介助件数の増加、子供の予防接種への協力的な態度などがある。このような、村人の保健サービス利用に関する変化は、今後も継続するものと思われる。また、保健ボランティアが活動的になり、自ら保健・衛生のモデルになるという変化や伝統的産婆が保健センター助産師と協力して村の妊産婦へ教育を行い、搬送を手伝うという変化は、事業の期待される成果を上回るインパクトであった。

このように、ピープルズ・ホープ・ジャパンは、母子保健改善事業の事業目標を達成し、その上位目標であった「村の女性が保健センターで適切な保健サービスを受けることができる」という目標もほぼ達成した。保健センタースタッフは、サービス改善と患者数の増加を関連したものとして受け止めており、一人ひとりの患者へ適切なサービスを提供することが大切であると考えている。また、保健ボランティアや伝統的産婆は村人の健康を守るために意欲的になっており、今後も村人への教育を継続したいと述べている。村人たちの行動変容は始まったばかりであり、それを確定的なものにするためには、さらに教育を行わなければならないということが保健センターと村人の共通の認識である。